

# 心の支え～家族ではなく神の国を

## ルカによる福音書 18 : 28 - 30

18:28 するとペトロが、「このとおり、わたしたちは自分の物を捨ててあなたに従って参りました」と言った。 18:29 イエスは言われた。「はっきり言うておく。神の国のために、家、妻、兄弟、両親、子供を捨てた者はだれでも、 18:30 この世ではその何倍もの報いを受け、後の世では永遠の命を受ける。

家を捨てよ。妻を捨てよ。兄弟を捨てよ。親を捨てよ。子どもを捨てよ。イエスは本当にこんなことを教えたのでしょうか。世界を救うことになると信じ込まされて、「献身」と称して親兄弟を捨てカルト宗教に邁進する若者がいますが、イエスの弟子たちもこのような反社会的な集団だったのでしょくか。このような集団は明らかに聖書の言葉を取り違えて理解しています。実際、「自分の物を捨てて・・・（イエスに）従って参りました」と言っているペテロも、病気の姑を大切にし、妻と行動を共にしたことが知られています。

確かにここ29節には「家、妻・・・を捨てた者は・・・」とありますが、この捨てるという言葉は、「いらぬものを捨てる」と言うときに使う「捨てる」ではありません。もともとの意味は、「解き放つ」です。原典の言葉を辞書で調べてみますと、「解き放つ」のほかにも、「去らせる」、「そのままにしておく」などの意味も見られます。

つまりこの29節の言葉が言おうとしていることは、自分の安心安全のために家族というものに執着する生き方を戒めているのです。無慈悲に捨てるということではなく、自分の支えにはしないということです。確かに家族は私たちの安心安全の基ではあります。けれどもイエスはそういう家族への「つかみかかり」を手放すように求められるのです。どういうことでしょうか？

イエスは「神の国のために」とおっしゃいます。神の国とは何でしょうか？イエスがこの話をされる直前に、ある金持ちが、全財産を売り払って貧しい人々に分け与えなさい、とイエスに言われ、非常に悲しんだという話が出てきます。けれどももしこの金持ちがイエスの求めに応じて、イエスに従ったとしたなら（当時そういう人々はたくさんいたようです）、彼は貧しい人々との心のつながりを経験し、失ったものに余りある豊かな交わりを得たことでしょう。つまり神の国とは、自分だけの豊かさを求める、いわばマイホーム主義を乗り越えることを意味しています。

神の国という考えは、ルカによる福音書全体を貫く太いテーマであるというお話を前回もいたしました。覚えていらっしゃいますか？神の国はどこにあるのか？神の国はイエスと共にある、というのがその答えでした。そしてそのイエスはどのようなお方だったのか？イエスは苦しむ者と共におられる方でした。あの金持ちが財産を失う喪失感を味わったとき、イエスは共にいてその悲しみの大きさ、なそうとすることの困難を、「らくだが針の穴を通る方がまだ易しい」と言って理解してくださいました。

家族を失うという大きな喪失感を皆さんは体験しておられることでしょう。もし家族だけが頼みなら、その喪失体験を乗り越えることはできなかったのではないのでしょうか。何が皆さんを支えたのですか。喪失体験は何も死別や離別ではありません。家族が急に頼りがいなくなる、病気になる、家族が信頼できなくなる、家族がありのままの自分を受け入れてくれない、経済的に不安定になる・・・色々な喪失体験があります。そんなとき、何が皆さんを支えたのですか。イエス様ではないのでしょうか。イエス様と一緒に苦しみを抱えるとき、そこが神の国なのです。家族を愛するなら、家族以外の心の支えをもたなければなりません。家族を偶像にしてはいけません。それが家族を「捨てる」ということの真の意味です。

真に家族を支えるためにイエスとのつながりが必要なだけではありません。イエスを心の支えにするとき、わたしたちは新しい家族を手にするようになります。それが教会です。女三界に家なし。女だけではありません。男もまた旅人です。私たちは皆この世にあっては旅人です。町中

から田舎に嫁に来てどんなに大変だったことでしょう。夫を支える日々に一人で涙することもあったでしょう。自分の至らなさにがっかりしよげ返ることもあったかもしれません。家族を求めて旅をしている若者もいます。今まさに引っ越してきたばかり、旅の途上という若者もいます。そんな心もとない私たちが、旅の同伴者としてイエス様を持つとき、互いもまた旅の同伴者として支えあう新しい家族、つまり神の国の先触れとしての教会を持つのです。

教会はイエスが共に苦しんでくださることを体験している者の集まりです。苦しみを知っている者だけが、苦しむ者を助けることができます。うつを知っている者だけが励ますことができます。不安を知っている者だけが慰めることができます。悲しみを知っている者だけが癒すことができます。小さな教会ですが、真に心通い合う信仰のコミュニティを作って行こうではありませんか。